

【研究ノート】

建築家・吉本與志雄と尾張徳川家

香山里 絵

はじめに

一 吉本與志雄の履歴

二 吉本與志雄の果たした役割

おわりに

はじめに

建築家・吉本與志雄（一八九五～一九七三）は昭和六年（一九三二）から十一年にかけて、尾張徳川家（以下、「尾張家」と略称する）十九代当主義親（一八八六～一九七六）の構想による建設事業に従事した。その内訳は、以下の通りである。

・尾張家目白本邸（東京府北豊島郡高田町大字雑司ヶ谷旭出、現在の豊島区目白三丁目）

本館―渡辺仁（一八八七～一九七三）設計、吉本與志雄設計監理、施工竹中工務店、昭和六年十一月六日着工、同八年二月竣工。同四十三年解

建築家・吉本與志雄と尾張徳川家

体移築、翌年八ヶ岳高原ヒュッテとして開業、国登録有形文化財（令和二年八月十七日）。

事務所・役宅七棟・蔵二棟・撞玉室・自動車庫・気灌室・変圧室・物置・洗濯室・職人控室・供待・駐在所―吉本與志雄設計。いずれも現存せず。

講堂―徳川生物学研究所（荏原）より移築。昭和八年四月二十七日着工、同年九月十一日竣工。昭和三十九年九月取毀。

（日本館・茶室は吉本が本事業参加以前に麻布富士見町邸より移築、温室・倉庫は戸田康保子爵邸より継続使用）。

・徳川生物学研究所（同右）

渡辺仁設計、吉本與志雄設計監理、施工清水組、昭和六年十二月二十六日着工、同七年十月八日竣工。同四十五年三月廃止、翌年三月取毀。

・図書館（旧蓬左文庫、現在の公益財団法人徳川黎明会（以下「当財団」と略称する）本部及び徳川林政史研究所。以下「図書館」と表記する）（同右）

吉本與志雄実施設計（一部、渡辺仁の図面あり）、施工清水組、昭和七年

五月二十七日着工、同年十二月三十日竣工。

・徳川美術館（名古屋市中区徳川町）

本館・倉庫・事務室―佐野時平懸賞設計第一位、吉本與志雄実施設計、施工竹中工務店、昭和七年九月十一日着工、同年三月八日竣工。

気灌室・下足室・便所・巡査派出所―吉本與志雄設計。現存せず。

・尾張家納骨堂（愛知県瀬戸市定光寺町）

吉本與志雄設計、壁画長谷川路可、昭和十年十一月三日着工、同年十二月九日竣工。

吉本は徳川美術館及び図書館の実施設計者であるのに加え、昭和六年以降尾張家の建築相談人として、義親の友人である渡辺仁の設計として知られる目白本邸や徳川生物学研究所も含む尾張家の建設事業全般に関与した。尾張家及び当財団にとって重要な人物であることから、本論ではこれまではほとんど知られていない吉本の履歴と尾張家事業に参画した機縁について紹介することにした。⁽¹⁾

一 吉本與志雄の履歴



吉本與志雄（1895～1973）

吉本與志雄は明治二十八年（一八九五）三月九日、東京府南多摩郡八王子諏訪町に、山下與三郎の次男として生まれた。⁽²⁾十六歳の時、建築請負業を代々営む吉本亀太郎の養子となり、大正二年（一九一三）東京高等工業学校建築科に入学、同五年

七月同校を卒業した。⁽³⁾在学中に二度手島奨学賞牌を受け、同校提出の卒業計画「倶楽部設計図」が『建築世界』十卷十二号（同五年十二月）に掲載されていることから優秀な学生であったと推定される。

大正五年八月七日から三菱合資会社の地所部で傭使として勤務した。翌年には同社職員となり、地所課・地所部の技師補、技師として丸の内ビルディング⁽⁵⁾、三菱銀行の建築設計及び監督に従事した。また会社内貸ビル懸賞設計で一等当選した。同十二年同社技師長であり「恩師」である桜井小太郎（一八七〇～一九五三）が建築事務所を設立したことから、吉本は一年の契約で同事務所に入所、東洋文庫（本郷区上富士前町二〇）建築にあたっては現場主任を務めた。⁽⁸⁾

翌十三年九月、吉本は吉本建築事務所を主宰し独立した。吉本建築事務所では幣原喜重郎邸（本郷区駒込上富士前町七二）の監督を行ったほか、博文館社長である大橋進一郎（新宿区牛込若宮町三八）、大橋の親戚である伊藤欣二郎（麹町区下二番町四三）、キリスト教研究の保護で知られる渡辺莊郎（麹町区二番町五二）、岩崎輝弥郎（豊多摩郡代々幡町代々木八〇八）を設計施工した。⁽¹²⁾また愛知銀行本店（起工同十五年九月、竣工昭和三年六月）の建築総監督を務め、蔵前工業会館の建築懸賞（同五年）で一等となった。⁽¹⁵⁾同六年から十一年まで尾張家目白本邸・生物学研究所・図書館・美術館・納骨堂を建設し、途中、義親の次女春子の婚嫁先である西郷吉之助邸（豊島区池袋）を建てた。⁽¹⁶⁾その後、同十一年から十二年にかけて東武直営の常盤台住宅に三棟を建設、同十二年にはジョサイア・コンドル設計の岩崎家高輪邸の修繕増築に従事し、同十三年五月十二日には東京回教礼拝堂（渋谷区代々木大山町）を竣工させた。⁽¹⁹⁾同年、吉本建築事務所は上海に支店を開設し、三菱商事上海支店（同十二年十一月再開）・南京支店（同十四年一月開設）・無湖支店（同十五年六月開

設）・漢口支店(同十三年十月再開)・徐州支店(同十六年十二月開設)・上海日
亜製鋼製鉄所等の設計監督を務めた。⁽²⁰⁾ 同十八年十月八日三菱地所株式会社
上海出張所が開設されると所長を兼任し、終戦まで三菱地所に在籍した。⁽²¹⁾

戦後、昭和二十二年(一九四七)、三菱地所の依頼により、三菱重工業株
式会社名古屋航空機製作所岡山工場(第七工場・岡山水島)及び関連施設に
関して一論文を進駐軍岡山軍政部に提出、これが認められ国管理となつて
いた同敷地及び設備を大蔵省本省より貸与されて水島工業都市開発株式会
社を設立し取締役社長に就任した。⁽²²⁾ 同工場付帯施設として造成された資材
陸揚げの専用港水島港と無傷で残った十四棟の工員寮・四千戸の職員住
宅・青年学校・病院等の厚生施設及びその敷地約七十五万坪、国鉄倉敷駅
より工場まで敷設された水島鉄道等の管理の委託を受け、また港湾期成同
盟の副会長も務めた。二十八年五月に水島工業都市開発株式会社を倉敷市
に売却した後、東京に戻り、二十九年一月には新日本電設株式会社取締役
社長に就任、一年間で会社の整理・更生をはかり辞任、同三十年には東京
国際空港ターミナルビル建設のため民間資本によつて設立された日本空港
ビルディング株式会社の取締役に就任、翌年常務取締役となった。また同
三十一年には日本空港食堂株式会社取締役社長となり、同三十六年にはコ
スモ企業株式会社取締役役に就任、翌年日本空港ビル株式会社専務取締役、
日本空港ケータリング株式会社取締役社長、コスモ企業株式会社取締役社
長となった。同三十八年には東京国際空港エアーウェイト株式会社を設立
し取締役社長に就任、翌三十九年には日本空港食堂株式会社、日本空港
ケータリング株式会社を東京国際空港エアーウェイト株式会社(後の東京空
港ターミナルホテル)に吸収合併し取締役社長となった。同四十年五月古稀
を迎え同社取締役社長を辞任、翌年コスモ企業株式会社取締役会長となつ

た。⁽²³⁾

企業経営に携わる傍らロータリークラブの創立にも多く加わっており、
同二十六年創立の倉敷ロータリークラブ、同三十年六月創立の東京西ロ
タリークラブの創立メンバーでもある。同三十四年一月には東京羽田ロ
タリークラブを立ち上げ、同四十二年から三年にかけて東京西ロータリー
クラブ第十三期会長を務めた。同四十八年十二月五日胃がんのため東京銀
座の菊池病院で亡くなった。⁽²⁴⁾

吉本が戦前に関与した建築は表1の通りである。吉本が関係した建築事
業は大きく三菱関係、尾張家関係とそれ以外に三分される。吉本の名前が
残される三菱関係の仕事はこれまで東洋文庫のみであったが、岩崎家高輪
邸の修繕増築・岩崎輝弥邸・「岩崎家伊東別邸」・成蹊学園・そして当時
「中支」と呼ばれる地域での三菱商事の多くの支店が加わった。このうち、
ジョサイア・コンドル設計高輪邸の昭和十二年の修繕増築工事は、同十三
年二月二十二日に岩崎小弥太が株式会社三菱社へ高輪邸を寄付する前年に
あたり、開東閣としての用途変更に応じて改築されたと考えられる。⁽²⁵⁾ 岩崎
家・三菱と吉本の関係は今後十分に検討する必要があるだろう。

また吉本の唯一の設計懸賞入賞作である蔵前工業会館の懸賞設計受賞の
際の談話が同五年の「蔵前工業会誌」に収録されている。⁽²⁶⁾ それによると大正
五年に東京高等工業学校を卒業した後、三菱の地所部で十二年勤続し、そ
の後技師長の桜井が事務所を開設するにあたり手伝いとしてそちらに転じ
た。しかし病気のため桜井小太郎建築事務所を退職、吉本建築事務所を自
営することとなった。実務に追われがちでそれまで募集された設計図案に
一度も応募したことがなかったが、今回に限っては「自分達の会館」なの
で大発奮をしたと述べている。⁽²⁷⁾ 周囲に評価される才能を持ちながら名声に頓

表1 吉本與志雄建築一覧

所 属	番 号	名 称	関 係	年 代	備 考
東京高等工業学校	1	「倶楽部設計図」	卒業計画	1916	『建築世界』10巻12号(大正15年12月)
三菱地所部・桜井小太郎建築事務所	2	東洋文庫(本郷区上富士前町)(桜井小太郎設計)	現場主任	1924	『建築雑誌』38輯(大正13年)
吉本建築事務所	3	幣原喜重郎邸(本郷区駒込上富士前町)	設計監督	不明	桜井小太郎設計図面(1921)に基づく施工か。
	4	大橋進一郎(新宿区牛込若宮町)	設計施工	1926	
	5	伊藤欣二郎(麴町区下二番町)	設計施工	不明	
	6	渡辺莊邸(麴町区一番町)	設計施工	1927	
	7	岩崎輝弥邸(豊多摩郡代々幡町代々木)	設計施工	不明	
	8	愛知銀行本店(名古屋市区玉屋町三丁目)	現場総監督	1928	
	9	蔵前工業会館(芝区日陰町一丁目)	設計懸賞第一等	1930	
	10	尾張徳川家目白本邸(本館/事務所/講堂/役宅1号～3号/蔵1号～2号/撞玉室/自動車庫/気灌室/物置1～3/変圧室/温室1～2/洗濯室/観音堂/職人控室/供待/巡査駐在所)	建築相談人/実施設計(一部)	1931～1936	『建築雑誌』47輯(昭和8年)
	11	徳川生物学研究所			渡辺仁設計。
	12	図書館(蓬左文庫)			実施設計。
	13	徳川美術館(本館/倉庫/事務室/気灌室/下足室/便所/巡査派出所)			実施設計。
	14	尾張徳川家納骨堂(瀬戸市定光寺町)			平成4年崇徳廟と命名。
	15	西郷吉之助邸(豊島区池袋)	設計施工	1932	義親次女春子婚嫁先。
	16	常盤台住宅263、265、273(北豊島郡上板橋村)	設計施工	1936～1937	
	17	岩崎家高輪邸(ジョサイア・コンドル設計)(芝区高輪南町及び品川区北品川三丁目)	修繕増築	1937	
	18	東京回教礼拝堂(渋谷区代々木大山町)	設計施工	1938	
	19	芝信用組合本店(不明)	設計施工	不明	昭和2年田村町本店または昭和14年芝公園本店のいずれか。
	20	岩崎家伊東別邸(不明)	設計施工	不明	
	21	成蹊学園(北多摩郡武蔵野村)	設計監督	不明	本館(桜井小太郎設計、1924年)か別の建物か詳細不明。
	22	三菱商事上海支店、南京支店、無湖支店、漢口支店、徐州支店	設計監督	不明(1938～45)	
	23	上海日亜製鋼製鉄所	設計監督	不明(1938～45)	

※「関係」欄における「設計監督」と「設計施工」は吉本履歴書における表記に基づいており、実際の業務内容がどこまで含んでいるか不明である。

着せず、実務に徹していた吉本の姿が想像される。

二 吉本與志雄の果たした役割

吉本與志雄の建築家としての半生で最もまとまった仕事が尾張家の建設事業であった。尾張家が目白で建設した建物は細かいもので数えると三十棟近く、美術館も陳列館・事務所・倉庫のみではなく、開館当初は切符売場や下足室、便所や気灌室を館外に備え、吉本はそういった建物の一つ一つを設計した。

尾張家の一連の建設事業は目白本邸から開始した。昭和四年、尾張家はそれまで暮らしていた麻布富士見町本邸の敷地譲渡交渉を開始し、譲渡がほぼ決まった同五年八月、親戚である戸田康保子爵（一八八九―一九四八）より東京府下豊島郡高田町大字雑司ヶ谷旭出（現在の豊島区目白三丁目）の敷地九一五一・八九坪を購入した。⁽³¹⁾ 尾張家は、温室と二部の倉庫を除いては戸田邸の建物を使用せず、門も別位置とした。同年九月に敷地内にはまず麻布富士見町邸から移築する建物群の材料貯蔵のための仮小屋が建設された。⁽³²⁾

麻布富士見町邸のフランス大使館との譲渡交渉の冒頭から、邸内の日本館の一部と茶席の移築は前提条件として提示されており、同年十月二十二日には渡辺仁工務所を代理人として移築届出が提出され、同月二十七日に移築許可が出た。翌月、大工・岡田麻太郎により麻布富士見町邸日本館の移築が開始した。十一月二十四日に地鎮祭が行われ、十二月八日には上棟式が行われた。しかし吉本によれば「建築工事に色々な問題が発生して、今後の計画に関して真剣に考へざるを得なく」なり、「誰か建築の専門家で人格者で頼りになれる者は居ないか」として選ばれたとある。⁽³³⁾ 翌年一月

二十四日、吉本は尾張家の建築相談人となった。⁽³⁴⁾ 吉本は目白敷地周囲の邸宅との境界確認からその業務を開始し、同年三月十日には戸田家を含む周囲の邸宅との境界に境杭が打たれた。⁽³⁵⁾ 目白本邸の建設は敷地の境界確認も十分にされないままに開始していたと考えられ、吉本の採用により細部に亘る敷地の全体像を把握することができたと考えられる。

目白本邸敷地はこの年末には一部が財団用地として寄付され、そこに徳川生物学研究所と講堂・図書館等が建てられたが、同六年初頭にこれらの話はまだなかった。本邸の一部を財団に寄付するための線引きは吉本も参加しての作業だったであろう。また徳川美術館懸賞設計のための下図を作ったのも吉本であり、吉本が加わることにによりこれらの事業が動き出したと考えられる。⁽³⁶⁾

吉本によれば、この事業における吉本の役割は「徳川家の一員即ち建築顧問として直接建築主と折衝しその主旨を設計者に伝ふる中間役目」であったという。⁽³⁷⁾ この時の尾張家の事業は「建築主―（監督者・建築顧問）―設計者―施工者」という形で実施されたとし、「相当大きな建築に必要な組織で、建築主が多忙であるため一々設計者を呼んで自分の希望を伝えるのに不便であるので特に自分の傍に建築技師を付随して随時に事の大小となく相談して自分の希望通りの建築を進めて行くことで出来上った」としている。⁽³⁸⁾

吉本が尾張家の建築相談人になったのは、愛知銀行の仕事に起因するという。愛知銀行本店の建築顧問を務める藤村朗から愛知銀行頭取渡辺義郎に推薦されて、建築総監督となり、同本店は同三年六月竣工した。その工事の途中で愛知銀行出身の鈴木信吉が尾張家の家令となった。⁽³⁹⁾ この鈴木家令から吉本に直接相談があり、引き受けることとなったと記している。

おわりに

吉本が残した図面には建築主である義親の考えと、それを実現させるべく義親の傍らにあった吉本の思考の痕跡を見ることが出来る。吉本が関与した最初の頃と思われる図面には、目白本邸本館と日本館、徳川生物学研究所しか描かれていない測量図面もあるが、そこに徐々に建物を加えていく様子もみてとれる。また美術館下足室の図面には最終的に実現しなかったと思われる滑車を使った仕掛けが描かれている。尾張家建設事業で建てられた数多くの建物とその図面を通して、義親と吉本の二人が描いていた夢をすこしずつでも解明したいと考えている。

註

- (1) 吉本の建築を扱った論文は左記以外に確認していない。
五十嵐あすか・伊藤裕久・石博督和「9484 東京回教礼拝堂の形成過程と空間構成に関する考察」〔日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)〕日本建築学会、二〇一八年。
- (2) 吉本の履歴作成にあたっては田中淳之氏より、卒業論文執筆の際に吉本家より受けとったという「履歴書」ほかの資料のコピーを頂戴した。また左記文献を確認した。
堀勇良『日本近代建築人名総覧』(中央公論新社、二〇二一年)。
田中淳之「日本近代建築におけるイスラーム様式」(一九九七年度奈良大学文学部文化財学科卒業論文)。
- (3) 註(2)「履歴書」、東京高等工業学校編『東京高等工業学校一覽・大正九十年』(東京高等工業学校、一九二〇年)。
- (4) 東京高等工業学校建築科は当時滋賀重列が建築科長を務め、前田松韻・橘節

- 男・斎藤兵次郎・土居松市といった教授陣であった。財団法人手島工業教育資金団助成の奨学金は大正八年事業開始であることからこれに該当せず、吉本が得たのは明治三十二年から手島精一(一八四九―一九一八)より「手島奨学費資金」「手島奨学賞品資金」と称する寄付に基づく奨学賞と推定される(東京高等工業学校編『東京高等工業学校一覽・大正三十四年』(東京高等工業学校、一九一四年)、註(3)『東京高等工業学校一覽・大正九十年』)。
- (5) 吉本與志雄の履歴書には「ビルデング」と表記されている。
- (6) 註(2)「履歴書」に記載されるが、これがどのような懸賞であったか不明である。
- (7) 吉本は「恩師桜井小太郎」と表記する(註(2)「履歴書」)。大正十二年五月、桜井小太郎をはじめ山下寿郎・川本良一・石原信之ほか十数名が、三菱地所を一斉に退社したことが知られており、吉本もこの中の一人と考えられる。同九年一月に設計課三十六名、工作課十九名を有した地所部は、同十二年四月二十日の職制改正で設計課・工作課がなくなり、新たに立てられた営繕課は二十三名となっている(丸の内百年の歩み 三菱地所社史 上巻、三菱地所株式会社、一九九三年)。
- 中村勝哉「桜井小太郎伝」〔桜井小太郎作品集〕桜井小太郎作品集刊行会、一九三〇年)によれば、桜井小太郎建築事務所員の過半数は、「石原信之氏初め退社の際、赤星地所部長の厚意に依り三菱からもらひ受けた人々で、君に取っては信頼と情誼の深い者のみである。丸ビル七階の桜井小太郎建築事務所を訪ねる者は、あの明るい清澄な君の音声と、石原氏の温容に接し、所員一同の愉快に執務されて居るのを見て、いづれも余慶ある人々の集りとして心から敬慕の念の湧くのを覚える」としている。
- (8) 東洋文庫は桜井小太郎・石原信之設計、東京市本郷区上富士前町二十六番地(現在の文京区本駒込)に建てられた。大正十一年十月起工、同十三年五月竣工の鉄筋コンクリート四階建てであり、吉本與志雄は現場主任を務めた(『建築雑誌』四六二、日本建築学会、一九二四年)。また中村勝哉編『桜井小太郎作品集』(註(7)でも東洋文庫設計監督の項目に「工学博士桜井小太郎担当の下に石原信之、吉本與志雄、不破清俊外数名終始之れに従事せり」とある。

(9) 註(2)「履歷書」。大正十年の桜井小太郎設計の酪原喜重郎設計図面(三菱地所)が知られることから、桜井設計の建物の監督業務と推定する(藤森昭信「丸の内をつくった建築家たち むかし・いま」https://www.mjc.co.jp/130th/mukashina04_02.html)。

(10) 大橋進一(一八八五―一九五九)は、博文館二代目館主大橋進太郎の長男として生まれ、大正七年博文館の株式会社改組に伴い三代目社長に就任、私立大橋図書館も運営していた。昭和二十一年に日本自由出版協会の設立に際して初代会長に就任、戦後博文館は解体した。『人事興信録』第八版(一九二八年)、『人事興信録』第十版(一九三四年)、鈴木徹造『出版人物事典 明治から平成 物故出版人』(出版ニュース社、一九九六年)、稲岡勝監修『出版文化人物事典 江戸から近現代・出版人1600人』(日外アソシエーツ、二〇一三年)、『博文館五十年史』(博文館、一九三七年)によれば牛込若宮町の邸宅落成は大正十五年十二月十四日であり、註(2)「履歷書」に掲載され図面も伝来する。

(11) 伊藤欣二(一八八四―歿年不明)は明治四十三年千葉医学専門学校を卒業しドイツ・米國に留学したが、実業家・伊藤幹一の養子となり大正十一年家督を相続し、自身も実業家となった。夫人文は大橋進太郎三女であり、大橋進一と義兄弟である。註(10)『人事興信録』第八版、『人事興信録』第九版(一九三一年)、『変った畑から実業界に入った伊藤欣二君』(『実業之日本』六一一、実業之日本社、一九二七年)。伊藤欣二郎は註(2)「履歷書」にはあるが竣工年代等は不明である。

(12) 渡辺荘(一八五九―一九二九)は岡山藩土山室忠左衛門の次男として岡山に生まれた。岡山で小学校に務めたり雑貨店を開いたりしたが岡山で塾を運営していた山本達雄の下で勉強し、日本郵船に入社、のち貿易業を起し銀行経営をおこなって財をなした。妻の影響でキリスト教に入信し、富士見教会の設立や東京神学社の建設資金などに私財を投じた。『日本キリスト教歴史大事典』(教文館、一九八八年)、『渡辺荘追想』(『石原謙著作集』第十一巻、岩波書店、一九七九年)。

吉本が建てた一番町の私邸には神学研究の蔵書をおさめる文庫(千鳥ヶ淵神学研究所)が併設された。渡辺邸の設計施工は註(2)「履歷書」に記されるほか図面が伝来する。

(13) 岩崎輝弥(一八八七―一九五六)は岩崎弥之助の三男。東京帝国大学農科大学

を卒業後、実業界に進んだが酪農業に従事したことが知られる(註(11)『人事興信録』第九版、註(10)『人事興信録』第十版)。岩崎輝弥邸の設計施工は註(2)「履歷書」に掲載され図面も伝来を確認しているが、現在のところ年代不明である。

(14) 愛知銀行本店は愛知銀行建築課設計による近世ゴシック様式の鉄筋コンクリート二階の建物で名古屋市区玉屋町三丁目十八番地(昭和四年六月五日以降、名古屋市告示第八四号により名古屋市区御幸本町通八丁目十八番地と町名改称)に建てられた。大正十五年九月起工、昭和三年六月竣工、本店建築にあたり藤村朗が建築顧問を務め、清水組に因り施工された(大澤吉五郎『愛知銀行四十六年史』(東海銀行、一九四四年)。

吉本與志雄「最後の殿様 徳川義親」(『東京西ロータリークラブ』一九七三・七四、No.1、2、東京西ロータリークラブ、出版年不明)には藤村朗の推薦を受けて建築総監督になったことに加え、藤村や頭取渡辺義郎が岩崎家の縁戚にあたることに触れている。

(15) 蔵前工業会は東京高等工業学校出身者の団結をはかるため明治三十九年に成立し、大正六年頃には蔵前工業会館の設立を検討していたが中止されていた。昭和二年、開館建設の促進運動が提議され、震災焼失地域ならば政府の補助金があり、営利事業とすれば復興建設助成会社より資金借入も可能であるとして、会館建設に株式組織を設立し、丸の内近辺の焼失地域付近に開設することとした。昭和四年五月会館建設が決議され、十一月十七日には株式会社蔵前工業会館へ創立費用の貸与・設立・株式の取得等が可決、株式会社蔵前工業会館が創立された。同五年六月二十六日に東京市芝区日蔭町一丁目一番地の建設予定地の契約調印、同年七月一日、会館建設設計図案懸賞募集規定が発表された(蔵前工業会誌「三一九、蔵前工業会、一九三〇年」。八月二十五日の締切には四十一通の応募があり、懸賞設計図案審査委員である蔵前工業会理事長内村達次郎・株式会社蔵前工業会館創立委員長笹村吉郎・名誉会員工学博士佐野利器・特別会員パチラーオブサイエンス・マスターオブアーキテクチュア滋賀重列・名誉会員工学博士曾根達蔵・特別会員工学博士田邊平學・特別会員工学博士前田松韻の七名により建築設計図案の入賞作が選ばれ、吉本案は一等を得た。九月十九日と二十日創

立事務所で懸賞図案の入選全作が展示された。実施設計及び監督は松下新作が行い、戸田組施工により同六年二月十二日起工、同六年十二月二十六日鉄筋コンクリート六階建ての会館が竣工した。翌二十七日に開館式が挙行され翌二十八日より営業開始した(『株式会社蔵前工業会館創立十年史』株式会社蔵前工業会館、一九四三年、『蔵前工業会誌』三三三―三三九、三三二―三八、三三三、三三六―三四〇、蔵前工業会、一九三〇年―一九三二年)。

(16) 西郷吉之助(一九〇六―一九七七)は西郷隆盛の嫡男である寅太郎の三男。徳川義親の次女春子と昭和七年十月二十日徳川家正媒酌のもと結婚した(昭和二十年離縁。設計図面が伝えられている)。

(17) 大正三年(一九一四)栗鴨から上州群馬を結ぶことを目指した東上鉄道が池袋―田面沢間で開通した。同社は同六年に東武鉄道に合併し、昭和二年(一九二七)東武鉄道は停車場用地として常盤台周辺を買収したが採算面で中止になり、直営の郊外住宅地として開発した。同十年武蔵常盤駅が開業し、翌年から常盤台住宅の分譲が開始した。常盤台住宅地の分譲パンフレットには、同十一年に吉本建築事務所の一棟(区画No.233、敷地一〇三坪、建物三八五坪、一階建六部屋)、翌年には二棟(区画No.235、敷地七四坪、建物二〇八坪、一階建四部屋)／(区画No.237、敷地一三五坪、建物四〇坪、二階建て六部屋)の建売住宅が掲載されている(板橋区教育委員会編『常盤台住宅物語』文化財シリーズ第八五集)板橋区、一九九九年)。

(18) 明治四十一年に完成した岩崎家高輪邸には前年結婚した岩崎小弥太夫妻が三年ほど暮らし、夫妻が駿河台に戻ってからは接客施設として使用された。昭和十三年二月二十二日岩崎小弥太は株式会社三菱社に高輪邸の土地約一五三・一〇坪と建物を百二十一万六千二百六円で譲渡し同年十月四日「開東閣」と命名した。「開東閣由来」によれば高輪邸は、表門は備前藩池田家上屋敷表門を移築、四三〇坪の日本屋と釈迦堂は駿河台邸より移築し、洋館二階建延坪九八七坪を新築、温室、菜園、果樹園、養鶏場などの一大農園を附設したものであった。昭和二十年五月二十四日・二十五日の空襲で日本館と国宝日本門は全焼、西洋館も内部が焼失したが、焼失する前の大規模な改装はこれまで知られていない。鈴木博之監修『岩崎彌之助高輪邸・開東閣―建築史料集』(開東閣委員会、二〇〇八年)、

米山勇監修『三菱四代社長ゆかりの邸宅・庭園』(三菱広報委員会、二〇一四年)。(19) 昭和十二年十月一日起工、同十三年五月十二日竣工の木造及びコンクリート造併用二階、塔五階の建物で、渋谷区代々木大山町一〇五八番地に建てられた。工事設計監督者は吉本與志雄、現場監督は尾張家目白本邸と同じく斎藤尊次、施工は師田組である(吉本與志雄「東京回教礼拝堂に就て」『東京回教礼拝堂(一)』『建築雑誌』五二一―六四二、日本建築学会、一九三八年)。五月十二日の落成式にはイエメン国王第三王子、サウジアラビア駐英公使などが列席した(礼拝堂落成式に就て)『イスラム』四、イスラム文化協会、一九三八年)。註(一)文献参照。

(20) 註(2)「履歴書」。三菱商事各支店の再開、開設については『三菱商事社史』資料編(三菱商事、一九八七年)を参考にした。三菱商事漢口支店は昭和十二年八月の第二次上海事変で閉鎖していたが同十三年十月再開した。上海支店も同七年一月の第一次上海事変で一般商取引は完全に停止していたが、同十二年十一月再開した。三菱地所上海出張所での設計監督業務として中華製鉄呉淞工場第二期工事、日亜製鋼鍛造工場、横浜正金銀行事務所・社宅、三菱商事由来の潤滑油工場があることからこれらにも関与したと思われる(註(7)『丸の内百年のあゆみ』)。

大正十年、吉本は三菱合資会社地所部在籍中に上海漢口への出張経験がある(註(2)「履歴書」)。この出張を通じて地縁をもった可能性がある。

(21) 註(2)「履歴書」、註(7)『丸の内百年のあゆみ』。三菱地所上海出張所は上海黄浦灘路十二号興亜大樓二階一〇一号室。「履歴書」には上海海軍武官府及陸軍武官府の無給嘱託である事が記され、『丸の内百年のあゆみ』にも「二十年に入ると当社技師は二名とも陸軍部隊嘱託(高等官待遇を依頼され、部隊管轄下の倉庫先決などに従事していた」とある。履歴書には八年間に東京と上海間を二十回以上往復、昭和二十年三月内地に帰還とある。また五十嵐は『三菱地所株式会社名簿』(一九四三年、四四年)から、吉本が三菱地所建築家土木係に嘱託として所属していたことを指摘している(註(1)論文)。

(22) 註(2)「履歴書」。吉本與志雄「水島地区産業の発展」(『関経連』一四、関西経済連合会、一九四八年)。

竹下昌三「地域開発と鉄道経営(一)―水島鉄道について」(『岡山大学経済学会雑誌』一一二、岡山大学経済学会、一九七〇年)。

水之江季彦、竹下昌三『水島工業地帯の生成と発展』（風間書房、一九七一年）。

『丸の内百年のあゆみ 三菱地所社史 資料・年表・索引』（三菱地所株式会社、一九九三年）にも昭和二十一年五月一日「水島事務所設置（岡山、三菱重工水島機器製作所福利厚生施設の管理引継ぎのため、三菱重工水島機器製作所より二百九名を当社に引き継ぐ、昭和二十二年四月三十日廃止）」とある。

(23) 註(2)「履歴書」。吉本は「履歴書」の昭和二十六年の項目で自身の事業が既に建築設計から会社経営に移ったと記している。建築家に留まらなかった背景には、実務に優れた才能を持ち、戦後日本の各地で起きていた問題を解消すべく間口を広げたことがあると感じられる。同九年吉本が記した「北鮮羅津の重要性を論ず」（『醬油と味噌』三十四、木下醸造研究所、一九三四年）には、軍事上・経済上の要所に注目する吉本の視点が示されており、建築だけではない視野の広さを備えていたことを伝える。

(24) 「第十三代歴代会長 吉本与志雄氏逝く」（『東京西ロータリークラブ』一九七三、七四、No.1、2、東京西ロータリークラブ、出版年不明）。

(25) 「岩崎家伊東別荘」に該当する建物は判明していない。

(26) 註(2)「履歴書」には吉本建築事務所の「設計監督」した建物として「成蹊学園」とのみ記載されている。成蹊学園本館は桜井小太郎設計として知られるが、桜井小太郎は「成蹊学園新築について」（『建築画報』一九〇、建築画報社、一九二五年）の中で自身は「顧問」、設計は清水組と記している。また昭和二年竣工の理化館は成蹊学園では旧制高校教諭加藤藤吉設計として伝えられ、同学園の図面には「合資会社清水組設計部設計」とあるという。現段階ではどの建物に関与したか不明である。成蹊学園の建物について成蹊学園史料館・保延有美氏に御教示賜った。

(27) 註(18)参照。今回確認された図面と戦前の開東閣を撮影した写真の比較により、今後多くが判明すると考える。この年五月七日三菱地所株式会社は設立したが、地所課の本館・建築・高輪の三係は本社に留まったとされることから、開東閣修繕が吉本に課された理由もこれらの事情に関係するのではないかと考える（註(7)『丸の内百年のあゆみ』上巻）。

(28) 『蔵前工業会誌』（三二、蔵前工業会、一九三〇年）。

(29) 註(15)参照。建築設計図案懸賞応募は蔵前工業会員に限定された。「蔵前工業会館建築設計図案懸賞募集規定」（『蔵前工業会誌』三一九、蔵前工業会、一九三〇年）。

(30) 拙稿「尾張徳川家麻布富士見町邸」上・下（『金鯢叢書』四八・四九、徳川黎明会、二〇二一・二〇二二年）。

(31) 「財団法人徳川黎明会略史」（徳川黎明会総務部、一九九三年）。戸田康泰（二八六〇～一九〇三）の後妻として、徳川慶勝八女富子（一八七一～一九〇九）が嫁いだ。明治三十六年に康泰が亡くなり、戸田康保は幼い時から尾張家の援助を得て育った。また康保は徳川義親の後輩で、義親同様学習院から東京帝国大学植物学科に入り、サクラソウの品種改良で名を残している。この康保には、血縁上義親の姪である松平茂昭の娘、昭子が嫁いだ。昭子は義親と兄弟のように共に幼少期を過ごした。

(32) 「目白邸新築日誌・建物明細」（徳川黎明会・尾張徳川家・八雲産業株式会社共有資料（財団史四〇五、一九三四年）。

(33) 註(14)吉本文献。

(34) 註(32)文献。

(35) 註(32)文献。

(36) 拙稿「尾張徳川美術館」設計懸賞（『金鯢叢書』四三、徳川黎明会、二〇一六年）。

(37) 「昭和六年九月 新築工事に関する記事控」（徳川黎明会・尾張徳川家・八雲産業株式会社共有資料（財団史一九））。

(38) 吉本與志雄「徳川家目白本邸建築に就いて」（徳川黎明会・尾張徳川家・八雲産業株式会社共有資料（財団史一三））。

(39) 註(14)吉本文献。鈴木信吉は大正十四年六月十五日から尾張家の御相談人を務めた。同十三年三月十一日に堀鉞之丞が家令を退任して以降尾張家の家令は空席となっており、昭和二年三月十日には愛知銀行に勤めたままに家令事務取扱補佐となり、愛知銀行を辞職して同四年九月に正式に家令に就任した（御相談人依嘱解嘱・御家職任免調書（明治二年～昭和二十三年））（徳川黎明会・尾張徳川家・八雲産業株式会社共有資料（財団史四二四））。愛知銀行は尾張家十八代当主徳川

義禮をはじめ伊藤次郎左衛門・関戸守彦・岡谷惣助等が設立発起し、明治二十九年三月十九日に設立認可、同年四月二十日に営業開始した。尾張家は同社の筆頭株主であり、取締役に家令や家扶が名を連ねている。鈴木も愛知銀行の職員とし

て辞職した後も愛知銀行が合併するまで役員に名を連ねている（註（14）『愛知銀行四十六年史』）。吉本の記した経緯は鈴木家令の現在知られる経歴には矛盾していない。（徳川美術館 非常勤学藝員）

金鯨叢書 第五十輯 [年一回刊行]

——史学美術史論文集——

令和五年三月三十日 編集
令和五年三月三十日 印刷・発行

編集者

深井 雅海
徳川 義崇

発行者

〒171-0031 東京都豊島区目白三ノ八ノ十一
公益財団法人 徳川黎明会
電話(3950) 〇一一一番(代)

〒171-0031 東京都豊島区目白三ノ八ノ十一

徳川 林政史研究所
電話(3950) 〇一一七番(代)

〒461-0023 名古屋市中区徳川町一〇一七

徳川 美術館
電話(935) 六二六二番(代)

〒605-0089 京都市東山区元町三五五

株式会社 思文閣出版
電話(533) 六八六〇番(代)

印刷所